
神殺しの民

UNNATURAL

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神殺しの民

【コード】

N1493V

【作者名】

UNNATURAL

【あらすじ】

インスタントな超短編民話

ある村には神様が住んでいた。神様は人々の願いを叶えた。しかしそれには条件があり、神様に願う者は左手の小指を捧げなければならなかった。

神様のお顔の前に左手を持って行くと神様は小指を噛みちぎり本を広げ読み上げた。文字も言葉も異国の物らしく理解することは出来ないが、読み終わる頃には願いが叶っていた。ある者は一生の富、またある者は病を治してもらっていた。神様が住む社には昼夜関係なく人々が並びその列は二山を跨ぐほどだった。神様は眠ることもなく願いを叶え続けた。神様は一度として笑うことはなくいつも悲しい顔をしていた。

村の噂は他の国にも広がり遠方からも人々が訪ねてくるが多々あった。村は繁栄しどんどん大きくなった。しかしその村に住む者たちに一人として左手の小指がある者は居なかった。

ある時若者が神に尋ねた。

『神様に消えてもらうことは可能でしょうか、このままでは世界が駄目になってしまいます』

神は悲しそうに首を横に振った。

それを見て若者はその場で一礼したかと思うと一本の刀で神様の首をはねた。駆けつけて来た村人たちは若者を殺し、神様の持ち物全てを社に奉った。そして刀は神殺しの刀として別の社に奉られた。後に聞いた話だが、神様の生首は満面の笑みだったそうだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1493v/>

神殺しの民

2011年10月6日03時25分発行